

令和 5 年 10 月 20 日

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会

プラスチック容器事業部

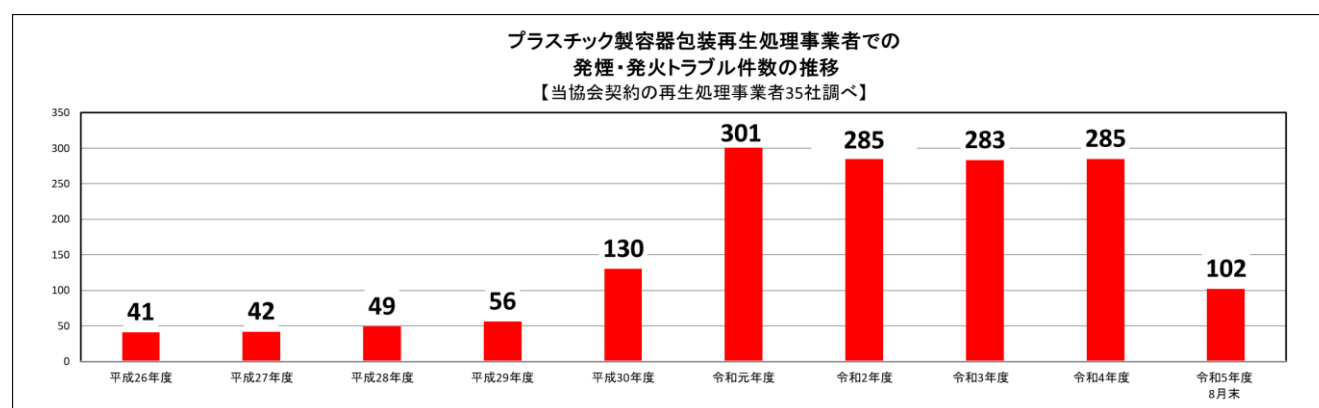
プラスチック製容器包装 再生処理事業者での発火トラブル状況報告

1. 再生処理事業者での発煙・発火トラブル状況

令和 4 年度における全国のプラスチック製容器包装再生処理事業者で発生した発煙・発火トラブルは 285 件となりました。大幅に件数が増加した令和元年度以降、高止まりの状況が続いていますが、令和 5 年度 8 月末においては 102 件となっております。

(表 1) 全国の再生処理事業者での発煙・発火トラブル件数の推移 (単位: 件)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 8月末
41	42	49	56	130	301	285	283	285	102



(図 1) プラスチック製容器包装再生処理事業者での発煙・発火トラブル件数の推移

2. 発煙・発火トラブル原因物の内訳

発煙・発火トラブルの原因物としてはリチウムイオン電池等の充電式電池が半数近くを占めております。また、内訳をみると、加熱式タバコが依然として増え続けていることが分かります。これは他のリチウムイオン電池使用製品と比較して使用サイクルが短く、廃棄、買い替え頻度の多さの影響があるとみています。なお、リチウムイオン電池使用製品は、市町村の中間処理施設での選別ラインでも多く発見されています。

(表 2) 発煙・発火トラブルの原因物 内訳 (単位: 件)

発煙・発火の原因物	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 8月末
リチウムイオン電池等の充電式電池	150	139	130	132	41
加熱式タバコ	59	67	73	85	22
モバイルバッテリー	24	14	15	7	4
乾電池	7	3	3	1	1
ライター	2	1	0	0	0
その他	0	0	4	3	0
発火原因特定できず	59	61	58	57	34
合計	301	285	283	285	102

3. リチウムイオン電池混入防止に関する活用資料について

これまで協会では、リチウムイオン電池を含む電子機器のプラスチック製容器包装への混入防止を目的として、関係者と共に、効果的な取り組みを模索してまいりました。ご活用いただけるツール等として、「リチウムイオン電池発火防止に関する取組事例集 2020 年版」、「リチウムイオン電池混入防止啓発 VTR (11 分版・3 分版)」、「アニメーション動画 (環境省-協会協力)」、「リチウム蓄電池等処理困難物対策集 (環境省)」を紹介させていただきます。なお、同様の内容は、当協会のホームページにも掲載しております。

* 参考資料

- ① : リチウムイオン電池混入防止取組事例集 2020 年版 (全資料)
https://www.jcpra.or.jp/Portals/0/resource/00oshirase/pdf/pla/rythium_cs2020.pdf
- ② : リチウムイオン電池混入防止啓発 VTR (フル/11 分・短縮版/3 分 30 秒)
<https://www.jcpra.or.jp/municipality/dangerous/tabid/757/index.php#Tab757>
- ③ : リチウムイオン電池混入防止ポスター・チラシ
<https://www.jcpra.or.jp/municipality/dangerous/tabid/1016/index.php>
- ④ : アニメーション動画 (環境省-協会協力) リチウムイオン電池混入防止啓発 VTR
セーフリサイクル! リチウムイオン電池! (正しい捨て方の動画)
<https://www.youtube.com/watch?v=dQWAqxID0oA> (フル: 7 分 25 秒)
<https://www.youtube.com/watch?v=srJ6IR49jz4> (児童向け: 4 分 15 秒)
- ⑤ : リチウム蓄電池等処理困難物対策集 (環境省-検討会容リ協会参加)
<https://www.env.go.jp/content/000124904.pdf>

以上